

コミュニティセンターの概要・活動内容

- 首都圏におけるコミュニティセンターaktaの取り組みから -



NPO法人akta 代表
コミュニティセンターakta センター長
荒木順子

日本のHIV/エイズ感染の状況

毎年、日本で新たに約1,500人のHIVに感染者・エイズ患者報告がある。

新規陽性者の中で、

52%

の人たちが

東京・関東甲信越で
感染がわかっている。

新規陽性者の中で、

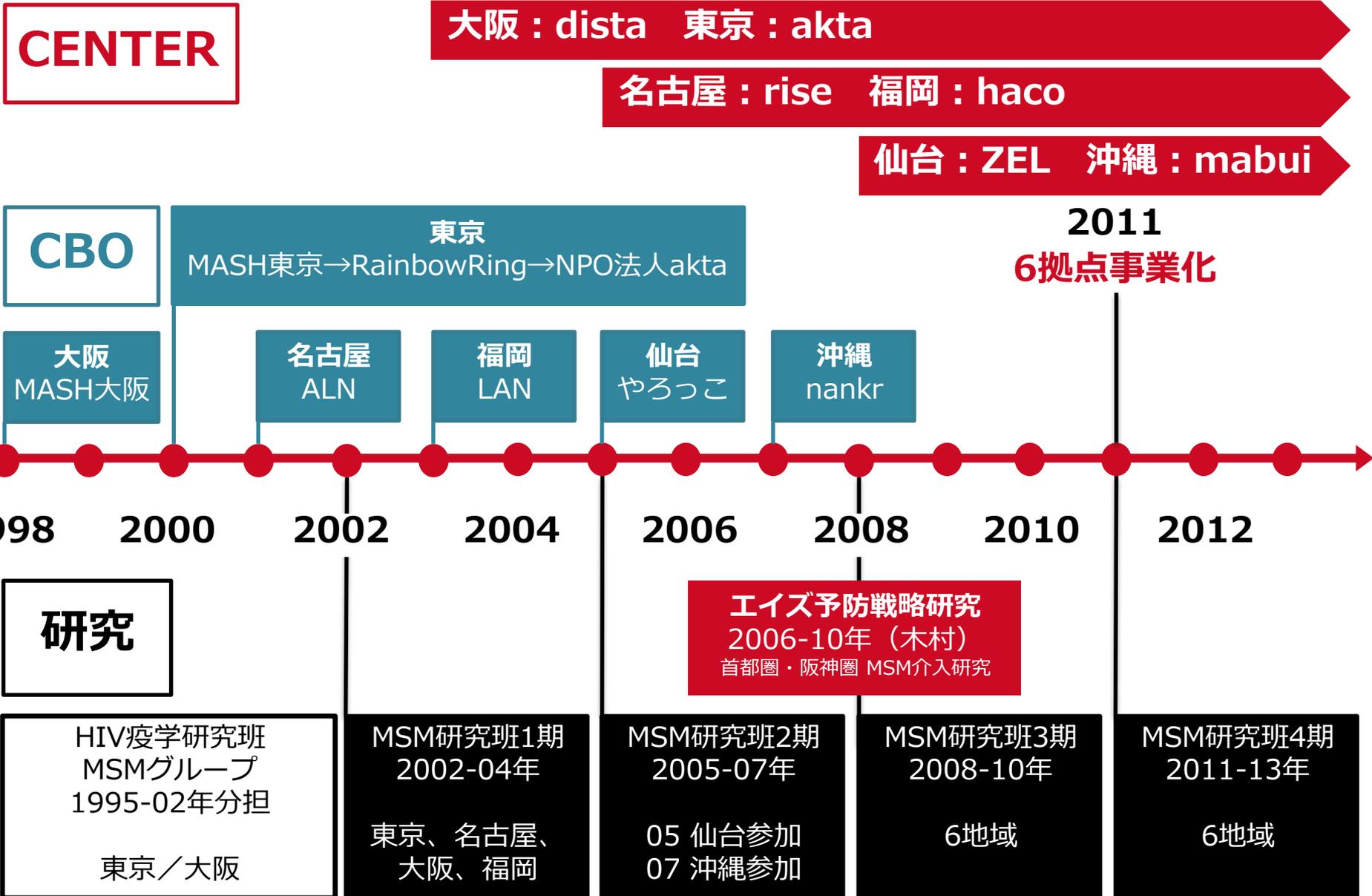
66%

の人たちが

男性同性間の性的接触で
感染している。

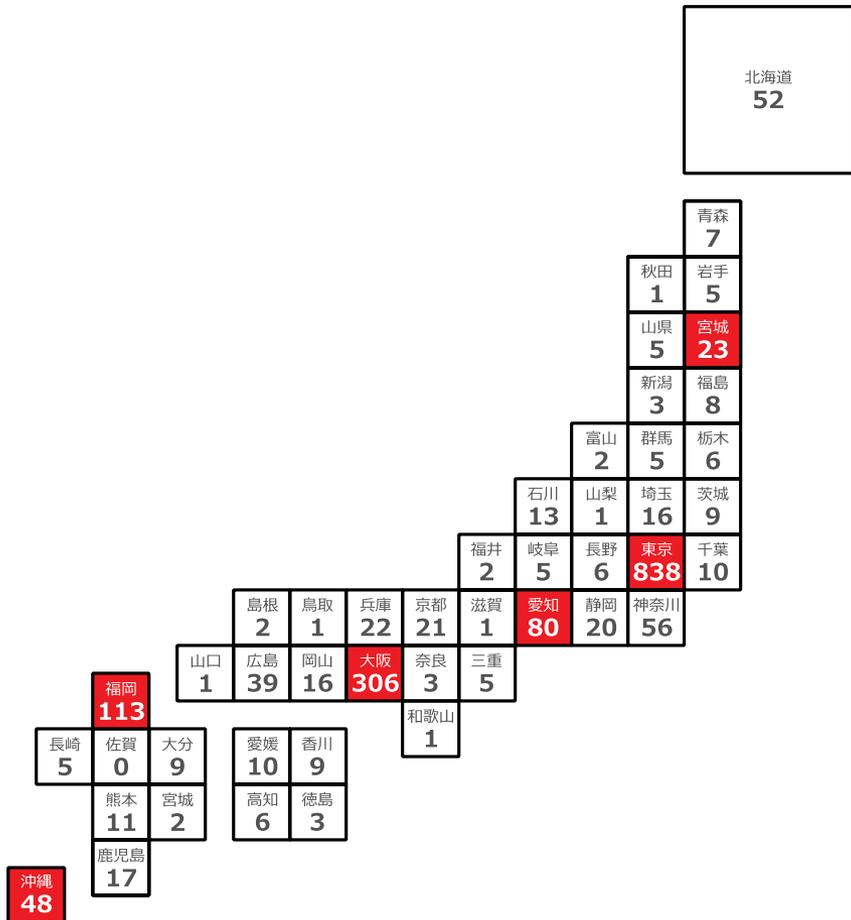
約22,000人が日本でHIVをもって生きている。

ゲイCBOとMSM研究班との連携による取り組み



MSMの背景

ゲイ向け商業施設分布



MSM人口分布推計値

地域	MSM割合	MSM人口
北海道・東北ブロック	4.4%	159,668
東京都	5.8%	219,010
関東・甲信越ブロック	4.4%	408,015
東海ブロック	4.2%	163,190
北陸ブロック	4.7%	34,794
近畿ブロック	5.1%	264,780
中国・四国ブロック	3.9%	106,244
九州ブロック	4.7%	162,289
全国	4.6%	1,502,107

(ゲイバー、ホストスナック、マッサージ、ハッテン場、サウナホテルの集計)
Gclickより 平成24年5月調べ

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
MSMのHIV感染対策の企画・実施・評価の体制整備に関する研究
研究代表者 市川誠一 平成24年度統括・分担研究報告書

MSMを対象とした啓発拠点の設置

HIV/AIDS 予防啓発のための コミュニティセンター

大阪 / dista

Community center
dista



<所在地> 大阪府大阪市北区堂山町17-5
翼ビル4F ☎06-6361-9300
<開館時間> 17:00-23:00 土曜日のイベント
開催時は翌朝5:00までオープン
<定休日>毎週火曜・年末年始
HP: <http://www.dista.be/>
携帯: <http://www.dista.be/m/>



仙台 / ZEL

community center
ZEL



<所在地> 宮城県仙台市青葉区国分町3-3-5
リスズビル9F ☎022-261-6556
<開館時間> 月・火・金・土 18:00-22:00
日曜・祝日 13:00-20:00
<定休日>水・木 (祝日の場合は開館)
第一日曜日・年末年始
<http://sendai865.web.fc2.com/zeli.html>



東京 / akta



<所在地> 東京都新宿区新宿2-15-13
第2中江ビル301 ☎03-3226-8998
<開館時間> 16:00-22:00
<定休日>
毎週月曜・毎月第2日曜・
年末年始
<http://www.akta.jp>



福岡 / haco

love act f
haco



<所在地> 福岡市博多区住吉4-4-21(バーライフ)
住吉1F ☎092-404-5119
<開館時間> 金・土・日曜日の
18:00~22:00
<定休日> 月~木曜日・毎月最終日曜日
<http://loveactf.jp/>



名古屋 / rise

rise



<所在地> 愛知県名古屋市中区栄4-18-16
NEWS BLD.3F ☎052-784-6863
<開館時間> 水・金 20:00-23:00
土 16:00-22:00 日 14:00-20:00
<定休日>月曜~水曜
<http://aln.sakura.ne.jp/>



沖縄 / mabui

mabui



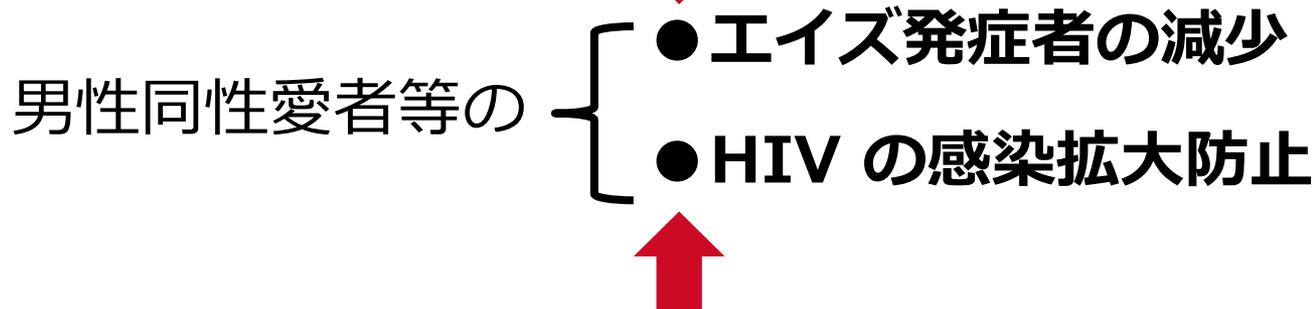
<所在地> 沖縄県那覇市壺屋1-7-5 民衆ビル3階
☎098-862-0114
<開館時間> 木・金曜 18:00-22:00
土曜 17:00-22:00 日曜 15:00-21:00
<定休日>月曜~水曜
<http://nankr.jp/>



活動の目的

2003年より新宿二丁目において厚生労働省委託事業（公益財団法人エイズ予防財団受託）としてコミュニティセンターaktaを運営。

男性同性愛者等を対象に、HIV感染予防の啓発普及とHIV抗体検査の啓発普及の促進をする。



■コミュニティセンターaktaの運営とコミュニティベースの活動。

■MSM首都圏グループ（NPO法人ふれいす東京とNPO法人akta）による検査普及活動。

■行政、自治体、NGO/NPO、医療検査、相談、支援、啓発、研究等各関連機関およびコミュニティのキーパーソン、商業施設、メディアとの連携。

■厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究班（研究代表者 市川誠一）との連携による調査・効果評価の実施。

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

community center akta



ゲイコミュニティの中から、
ゲイコミュニティに向けて。

- 住所：東京都新宿区新宿2-15-13第2中江ビル301
- アクセス：新宿3丁目駅から徒歩3分
東京メトロ丸ノ内線、副都心線、都営新宿線
- TEL & FAX：03-3226-8998
- Web：www.akta.jp
- Eメール：info@akta.jp
- Twitter：twitter.com/akta_info
- FaceBook：www.facebook.com/CommunityCenterAkta
- 開館時間：16:00 - 22:00

- スタッフ：常勤3人、非常勤1人
- ボランティア：51人

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

コミュニティセンターの機能

医療・検査・行政・NGO・支援機関等とのネットワーク

情報提供

“HIV/AIDS のリソースを集約・発信”

予防

検査

医療

制度

支援

相談

“オープンスペースで対応。
傾聴し、専門機関につなぎ、情報共有する”

感染不安

HIV告知

感染経路

メンタルヘルス

就労・生活

セクシャリティ

ドラッグ

⋮

HIV/AIDSの 可視化と啓発普及

“コミュニティの情報”

セクシャリティ

ゲイタウン

フリースペース

“コミュニティセンターの周知を図る”

コミュニティとの
ネットワーク構築の契機

展覧会

研修会

講習会

見学・実習

ミーティン
グ

フォーラム

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

来場者数と利用目的

2012年4月1日から2013年3月31日までの期間に**282**日開館。

総来場者数：
8,647人

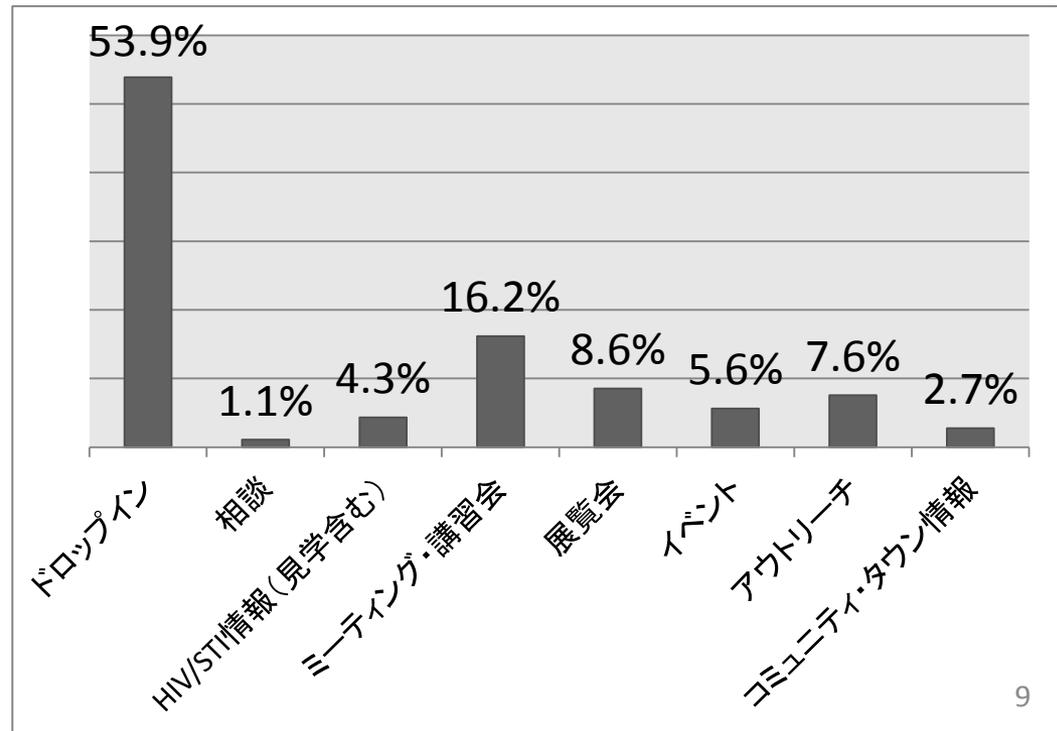
初来場者数：
1,758人 (20.3%)

累計来場者数：
89,144人

2003年9月オープンから
2013年3月31日まで

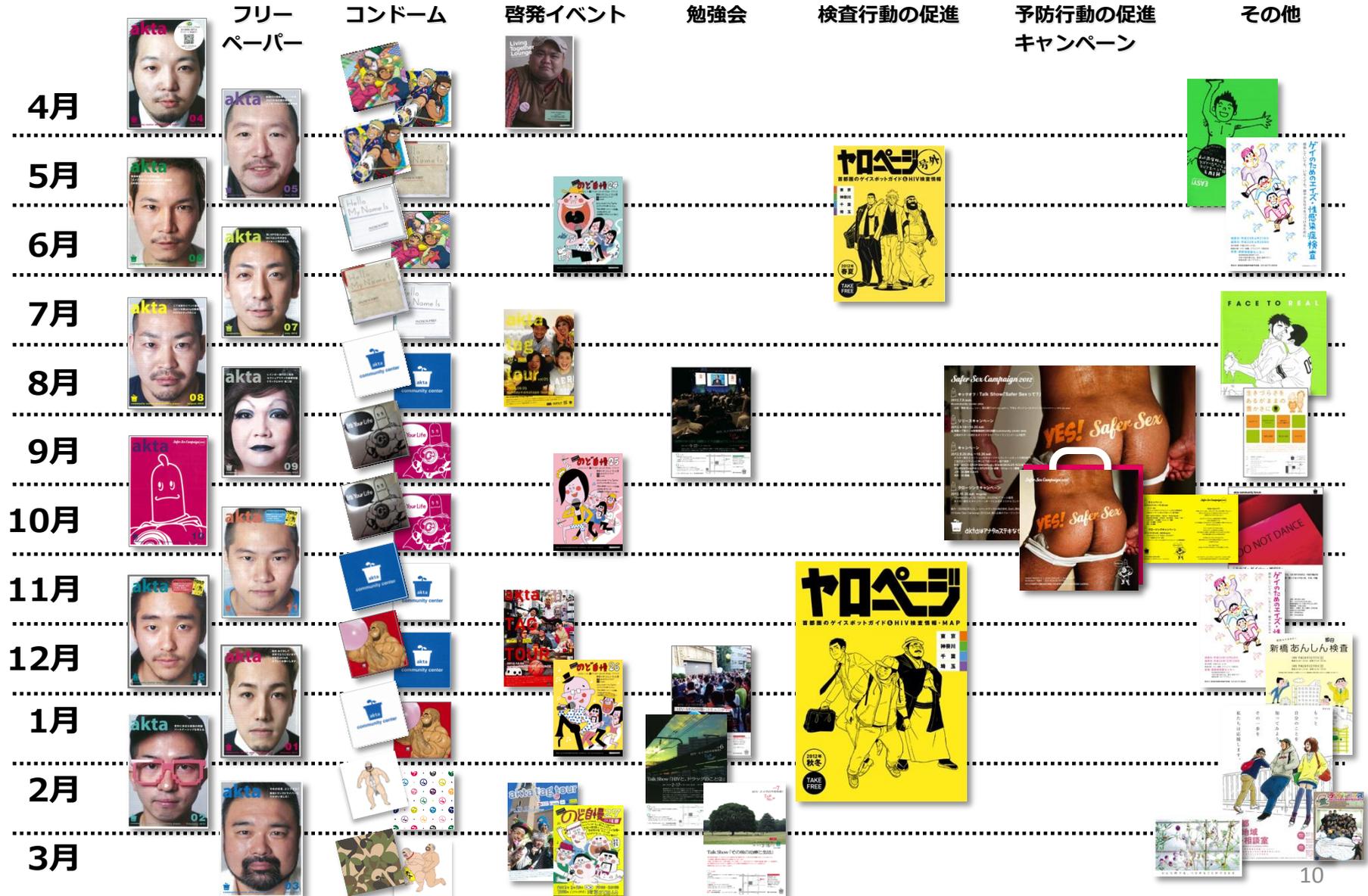
相談件数（対面）：
244件 (HIV関係30.0%)

ドロップイン、講習会やイベントへの参加などの初来場者が、HIV/AIDS情報や相談を目的に再来場、またボランティアによるアウトリーチ活動への参加へつながってゆく。リピーターが初来場者を連れて来場するケースも多くみられる。



— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

啓発資材の企画・制作と配布実績



— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

DELIVERY BOYS (ボランティア)

ボランティア 51人

※2012年12月31日現在



啓発資材を届けるコミュニケーション活動。
情報を楽しく届けて、街の空気を持ち帰る。



- 毎月 1 回 研修会を実施
 - ・ MSMのエイズ対策
 - ・ HIV/AIDSとリアリティ
 - ・ 性感染症の予防について
 - ・ コミュニティセンターaktaの取り組み
- 東京レインボー祭アウトリーチ
- 年 1 回 デリフェス企画・実施

MSM向け検査普及体制の構築と継続

— 検査環境の整備と検査行動の促進 —

◎戦略研究終了後、2011年4月からの取り組み

MSM首都圏グループ（NPO法人ぷれいす東京+NPO法人akta）&厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究班（研究代表者 市川誠一）

MSM対象HIV検査普及啓発・広報

- HIV検査普及のための資料の企画・制作
- 首都圏地域のゲイ向け商業施設へのアウトリーチ



効果評価

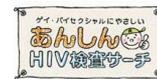
（厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究班（研究代表者 市川誠一）との連携による調査・効果評価の実施。）

- MSMにおける啓発活動の広がりを把握するコミュニティでの質問紙調査
- MSMの受検促進に協力する保健所での受検者アンケート

検査環境整備および相談支援整備

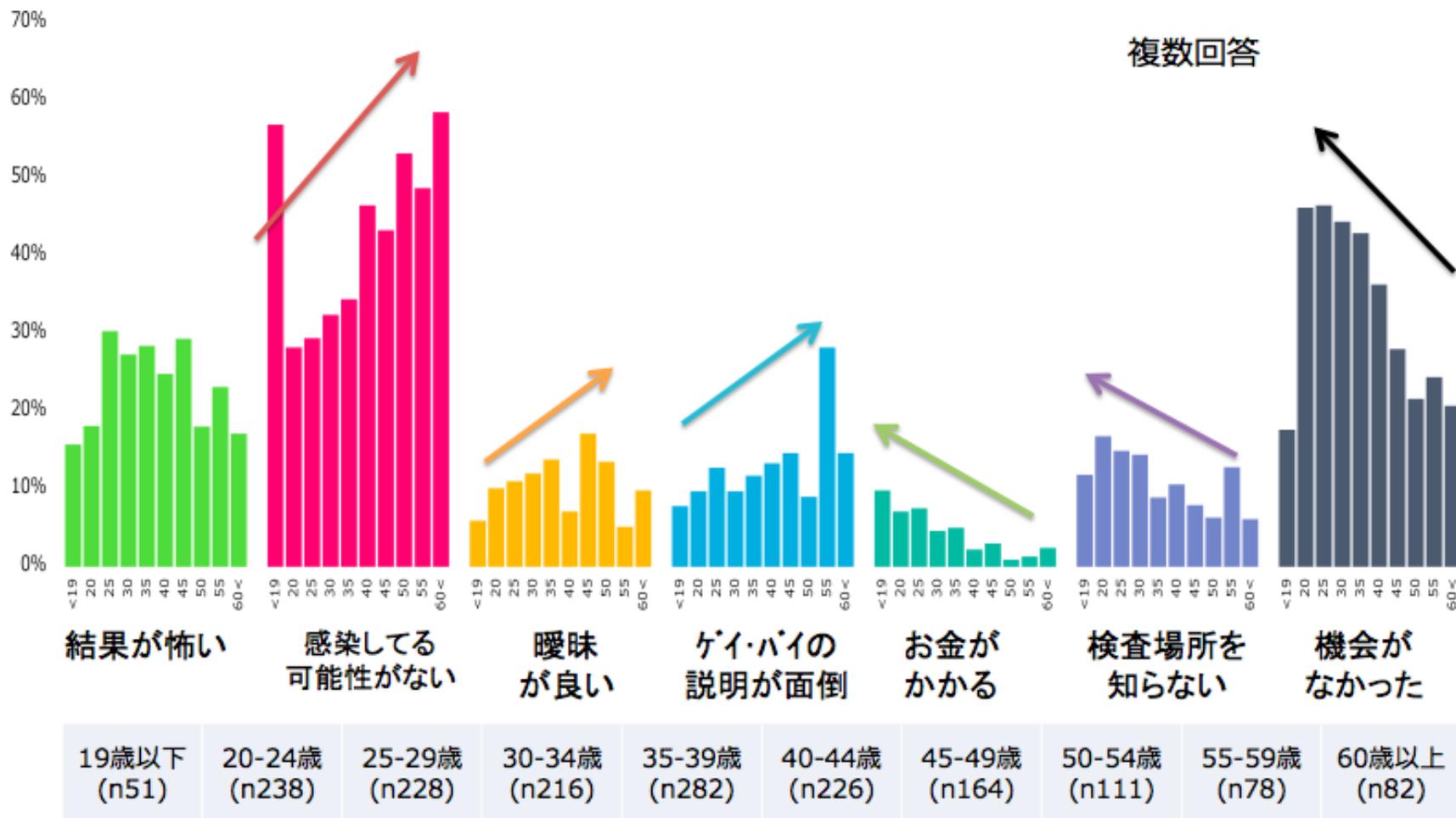
- エイズ対策事業に関する意見交換会の開催
- 都県とMSM首都圏グループで実施するMSM対応検査従事者に向けた研修会の実施
- 通常検査・臨時検査検査情報収集
- 支援・相談情報提供 webサイトHIVマップ

HIVマップ



MSMで生涯受検経験のない人の受検しない理由（年齢別）

全国のバー利用者対象のアンケートより



男性同性間のHIV感染対策とその介入効果に関する研究、エイズ予防のための戦略研究 平成22年度 バーアンケート

MSM向け検査普及体制の構築と継続

保健師（HIV検査担当者）研修会

東京都

東京都福祉保健局
健康安全室感染症対策課
エイズ対策係

- 日付：2013年6月21日
- 会場：都庁第一庁舎

●参加人数：**22人**

神奈川県

神奈川県保健福祉局
健康医療部健康危機管理課
感染対策グループ

- 日付：2013年11月1日
- 会場：横浜市開港記念会館

●参加人数：**19人**

千葉県

千葉県保健福祉部
疾病対策課
感染対策室

- 日付：2013年10月22日
- 会場：市川健康福祉センター

●参加人数：**13人**

埼玉県

埼玉県保健医療部
疾病対策課
感染対策担当

- 日付：2013年10月4日
- 会場：埼玉県浦和合同庁舎

●参加人数：**13人**

●プログラム（コーディネート：生島 嗣/NPO法人ぷれいす東京）

- ① 開催都県のHIV/エイズ対策
- ② アイスブレイク
- ③ 陽性者の手記リーディング(HIVのリアリティの共有)
- ④ セクシャリティへの理解と求められる配慮
- ⑤ MSMを対象にした研究結果・成果などから報告
- ⑥ 検査環境の取り組み事例の紹介と意見交換
- ⑦ セクシャリティに配慮した 模擬対応
- ⑧ 相談・支援に役立つリソース紹介/akta見学

●アンケート（神奈川県）

- ・ 性的な話題への抵抗感 → 研修を通して、性的な話題への抵抗感を感じる人が少なくなった。
- ・ 身近にMSMがいるという意識 → 研修を通して、身近にMSMがいる意識が高まる傾向が見られた。
- ・ HIV陽性者の相談も他の相談者同様に対応できるか → 研修を通して、対応する自信をつけた人が増えた。



MSMへの理解を深め、MSMが安心して検査を受けられる環境整備

啓発資材の施設掲載基準

◎ 検査施設ガイドライン

1. 都県とMSM首都圏グループで実施するMSM対応検査従事者に向けた研修会への参加
2. エイズ対策・HIV検査普及に関する意見交換会への参加
3. 施設でのMSM首都圏グループの資材活用
4. 検査結果(陽性/陰性)の伝え方の確認

◎ 掲載施設数(2013年11月発行分)

- | | |
|--------|---------|
| - 東京都 | 18施設→19 |
| - 神奈川県 | 20施設→22 |
| - 千葉県 | 8施設→8 |
| - 埼玉県 | 10施設→14 |

※ウェブサイトHIVマップ「あんしん検査サーチ」もこれに準ずる。

◎ 商業施設掲載ガイドライン

1. 『ヤローページ』等、HIVや性の健康に関する情報グッズの設置に協力する。
2. MSM首都圏グループが企画・編集する『ヤローページ』への、店舗情報の掲載を希望する。
3. 違法・脱法ドラッグの利用を禁止している。
4. 違法・脱法ドラッグの販売を行っていない。

◎ 掲載店舗数(2013年11月発行分)

地域：新宿、上野、浅草、新橋、渋谷、横浜、千葉、さいたまなど

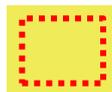
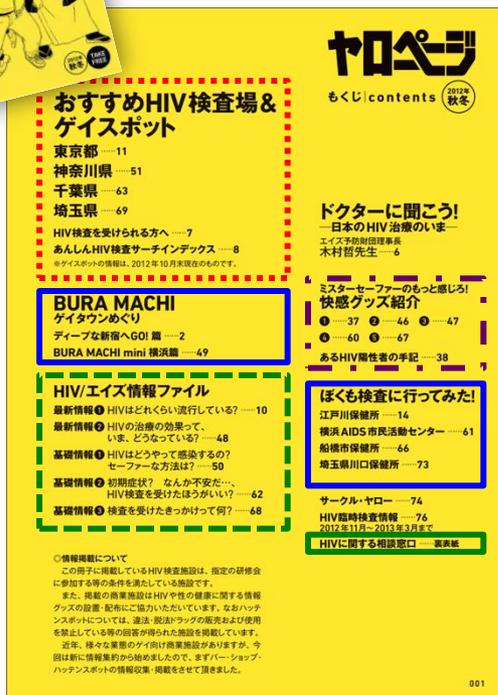
- | | |
|-----------|-----------|
| 1. バー | 244店舗→252 |
| 2. 性風俗店 | 23店舗→22 |
| 3. ゲイショップ | 22店舗→20 |

2011年度は出版社から店舗情報を購入し掲載。

2012年度からコミュニティセンターのネットワークを活かし、店舗情報を直接収集・掲載。

MSM向け検査普及体制の構築と継続

HIV検査普及のための冊子の企画・制作

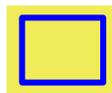


地域情報



HIV検査施設

MSM向け商業施設

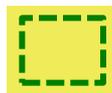


訪問記



HIV検査施設

MSM向け商業施設



HIV/エイズの基礎・最新情報
 HIV/エイズ関連の支援情報



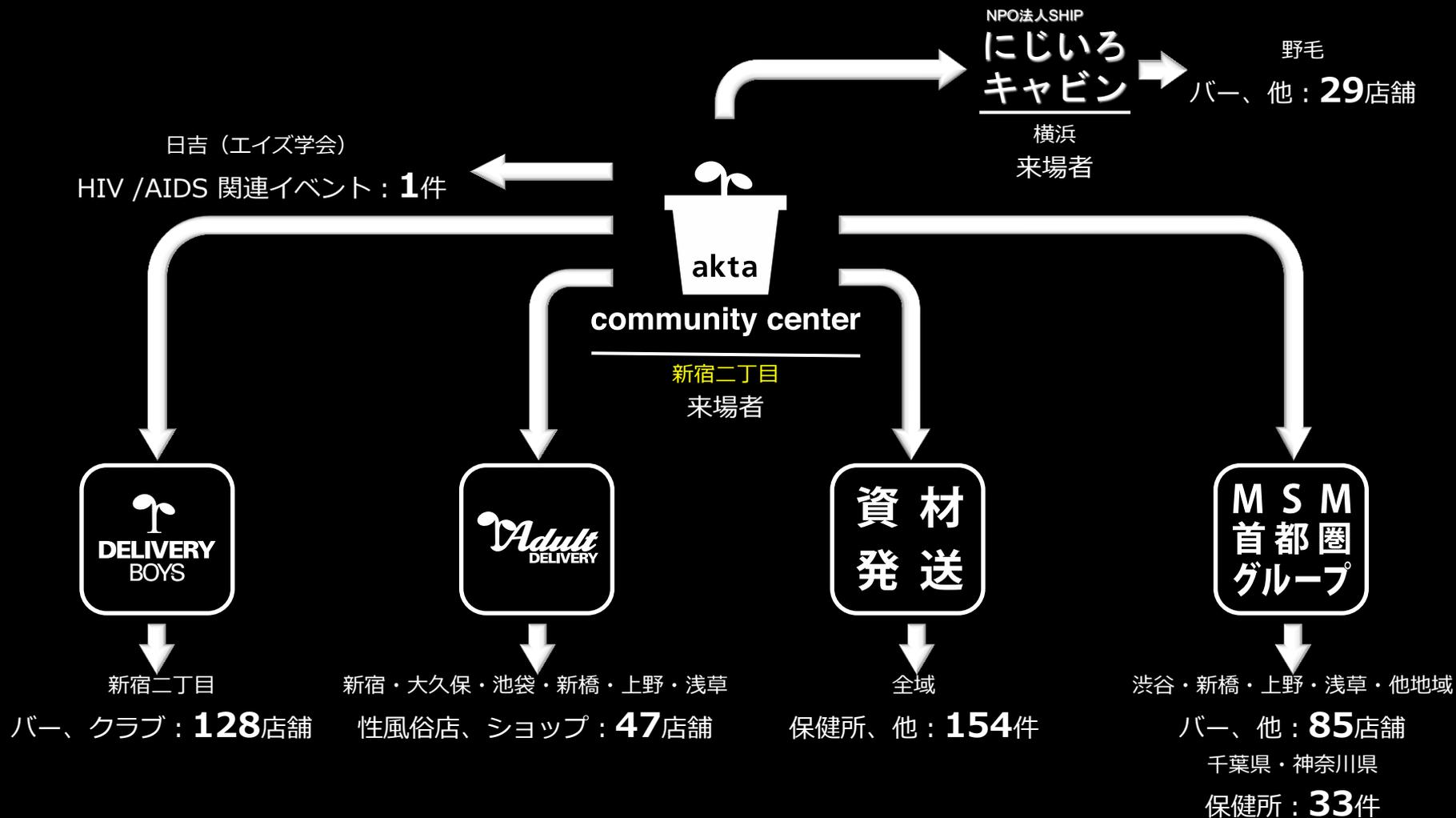
セーフーセックス情報

ヤローページ = ゲイスポット情報 + HIV検査施設情報 (基礎情報含む)

保健所などでの臨時検査が集中する6月・12月にあわせて、MSM層に訴求力のある検査情報資料を作成し、HIV検査のイメージを一新する事で、ゲイライフの中に受検行動を位置づける。

MSM向け検査普及体制の構築と継続

首都圏全域へのアウトリーチ



コミュニティセンターと477ヶ所からの発信。

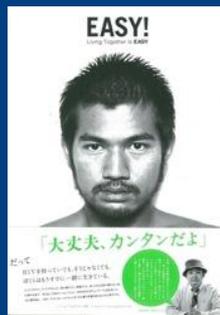
— NPO法人aktaの連携による取り組み —

啓発イベントの企画・開催（Living Together 計画）

多様性を伴った視点から「全ての人々がHIVとともに生きている」というリアリティーを共有するためのプロジェクト。ふれいす東京とaktaが呼びかけ団体。



LT in モンゴル

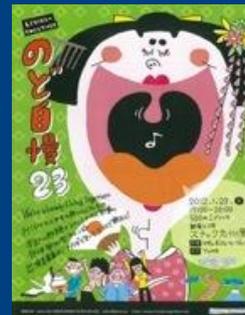


「EASY!」

HIVのリアリティーを
伝える陽性者やその周囲の人達の手記集



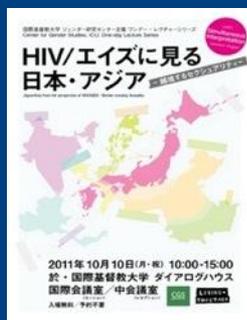
LT Lounge



LT のど自慢



LT in 仙台



LT in 国際基督教大学



TOKYO FM "THINK ABOUT AIDS"

**HIVを持っている人も、
そうじゃない人も。
ぼくらはもう、
いっしょに生きている。
WE'RE ALREADY
LIVING TOGETHER.**

LIVING TOGETHER

新宿から日本全国へ。メディアとの協働、教育機関、そしてアジアへ。¹⁸

— NPO法人aktaの連携による取り組み —

東京都福祉保健局

・ Talk Show 「HIVの今を知る！」シリーズ開催

世界の中のHIV、
国際エイズ会議 in ワ
シントンDCから
9/22



ゲスト：
樽井正義/慶応大学
大槻知子/ぷれいす東京
羽鳥潤/JaNP+
来場者：28人

HIVのMSM対策と
コミュニティ
1/12



ゲスト：
市川誠一/名古屋市立大学
松沢呉一/ライター
来場者：25人

HIVとドラッグのこと
②
2/17



ゲスト：
生島嗣/ぷれいす東京
ナオ/元静岡ダルク職員
来場者：46人

その後の治療と生活
3/16



ゲスト：
岡慎一/国立国際医療・
研究センター ACC
高久陽介/JaNP+
来場者：21人

— NPO法人aktaの連携による取り組み —

東京都福祉保健局：啓発資材の企画・制作・配布

●HIVと依存症の相談カード

HIVと、薬物やアルコール等依存症に関する相談カード、東京都精神保健福祉センター+セクシャルマイノリティの人に向けたサポート情報を掲載。



薬物依存

薬物の使用から開放されたいと思うセクシャルマイノリティの人のための自助グループ

Narcotics Anonymous 薬物依存症からの回復を助けるための匿名の自助グループ

東京グループ ☎080-1066-8594 (kai)
サンフランシスコグループ ☎090-4969-5824 (kaz)

友達やパートナーのドラッグのごとで悩んでいる方へ薬物依存症をもつ家族のための自助グループ

NAR-ANON 薬物依存症をもつ家族のための自助グループ

東京都福祉保健局 精神保健課
Tel/Fax 03-5951-3571 10:00-16:00 月曜-金曜(祝日除く)

薬物依存症のための施設、全国各都道府県約40カ所。

ダルク Drug Free Aftercare Program (DFA) センター

東京都上野区3-15-1
目黒駅前ビル
TEL 03-3844-4777
TEL 03-3844-4799

HIV/エイズについての相談

① 東京都エイズ電話相談
☎03-3292-9090 午前9:00-21:00 土日祝 14:00-17:00

② ゲイによるゲイのためのエイズ電話相談
NPO法人ふれいず東京
☎03-5386-1575 土曜 19:00-21:00

③ HIV陽性者、パートナー、家族のための電話相談
厚生労働省委託事業/NPO法人ふれいず東京
☎0120-02-8341 月曜-土曜 13:00-20:00
※携帯電話からも利用できます

④ すでに役立つHIVの総合情報サイト
「HIVマップ」
www.hiv-map.net/

⑤ どなたでも立ち寄れるオープンスペース、HIV/エイズをはじめとした性感染症やメンタルヘルスの情報、街のMAPも入ります。お気軽にどうぞ。
コミュニティセンターakta
新宿区新町2-15-13 2階 中江丸ビル301号室
Tel/Fax 03-3226-8998 www.akta.jp
16:00-22:00 (休館日)毎月第2回2階・年々増設

アルコール依存

① アルコール依存症のための施設、全国215カ所。
マップ http://pcca.client.jp/pdf/md_list.pdf

② AA 12ステッププログラム 関東甲信越 全国約200カ所
Tel 03-5957-3506

薬物依存症

薬物使用のきっかけは、各人それぞれ異なります。友達に誘われたり、ちょっとした興味だったり、セックスを盛り上げたものだったり。

Q. 「違法ドラッグ」って何？

Q. 「合法」だから安全？

A. 麻薬、向精神薬、覚せい剤または大麻に指定されていますが、それらと類似の有害性が疑われる製品をいいます。違法ドラッグ、合法ハーブなどと称して販売されるため、まるで身体に影響がなく、安全であるかのように誤解されがちです。

HIVと各種依存症との関係

●ドラッグを抽いたり、過度に飲酒するなどの行動が原因で、セーファーセックスができにくくなります。
●注射のやり方はHIVや肝炎などの感染リスクがあります。
●常用している薬物に不安定になり、ますますドラッグに依存したり、リスクの高い行動を続けるようになることがあります。

アルコール依存症

大気にしてきた飲酒、仕事、趣味などによる飲酒を止めるのに苦労することもありますが、「飲酒のコントロールができない」「健康状態などの原因が飲酒とわかっていないからやめられない」、など症状があらわれます。また飲酒により判断力が低下し、セーファーセックスができにくくなります。

東京都が運営する精神保健福祉相談機関のご案内

まずは、お住まいの地域のセンターにご連絡下さい

薬物依存、アルコール依存症、ADの期間や病状で困っているご本人やパートナーのご家族等からの相談を電話相談員が伺います。相談電話にまずご連絡を(優先可能)。必要な場合は直接相談(予約制)をいたします。相談無料。私費をとりません。相談することや警察に連絡されることはありません

港区・新宿区・品川区・目黒区
大田区・世田谷区・渋谷区
中野区・杉並区・練馬区

千代田区・中央区・文京区・台東区・墨田区
江東区・豊島区・北区・荒川区・板橋区
足立区・葛飾区・江戸川区・島しょ全域

多摩地区

① 中部総合精神保健福祉センター
東京都豊島区上野2丁目1番7号
☎03-3302-7711

② 精神保健福祉センター
東京都豊島区下谷一丁目1番3号
☎03-3842-0946

③ 多摩総合精神保健福祉センター
東京都多摩市中沢2-1-3
☎042-371-5560 042-376-1111(代)

相談電話 受付時間
月曜-金曜 祝明日は除く
9:00-17:00

お住まいの地域の保健所でもHIVや依存症に関する相談が受けられます。

— NPO法人aktaの連携による取り組み —

港区みなと保健所：受検促進プロジェクト

● AIチェック フライヤー制作

● 世界エイズデー新橋街頭キャンペーン アドバイス、資材提供

● 新橋あんしん即日検査 フライヤー制作、広報戦略、配布協力

MSM首都圏グループと連携 → 多摩川病院を紹介

フライヤーにHIVマップ、ふれいす東京電話相談、センターakta等サポート情報を掲載
地域性を活かし意識的にゲイと表記せずに、MSM層へ確実に届ける。

- ・ 12月7日（金曜日／夜間）受検者48名、20代～30代中心。MSM8割。

- ・ 12月9日（日曜日／昼間）受検者36名
40歳前後が中心。MSMが9割。

フライヤー持参者とゲイ向け出会い系サイトのバナーで知った層があり、口コミとネット両面の広報が受検者増加につながった。開催時期を検討しながら継続→2013年は7/5・12/6に実施し、（金曜日・夜間）受検者は60人を越えた。



— NPO法人aktaの連携による取り組み —

啓発普及のためのスピーカー派遣

2012.7.17

都立淵江高校 「健康講演会」

2012.10.2

高千穂大学 「HIV/AIDSと、人とのつながり」

2012.10.10

都立江北高校 「1学年思春期講座」

2012.11.8

国立保健医療科学院 「エイズ対策研修」

2012.11.23

ミュージカルRENT 「LGBT PRIDE トークショー」 「コミュニティセンターの概要・活動内容」

2012.11.23

**第26回日本エイズ学会市民公開シンポジウム
エイズ学生サミット** 「僕たちに、今、何ができるか」

2012.12.3

宇都宮市保健所保健予防課

「多様な性～ぼく・わたしのいきかた～」

2012.12.12

都立足立西高校 「セクシャルマイノリティについて」

2013.2.17

コミュニティセンターhaco

「新宿2丁目におけるアウトリーチの実施と体制」

2013.2.22

東京都精神保健センター 「HIVとアディクション」

2013.3.14

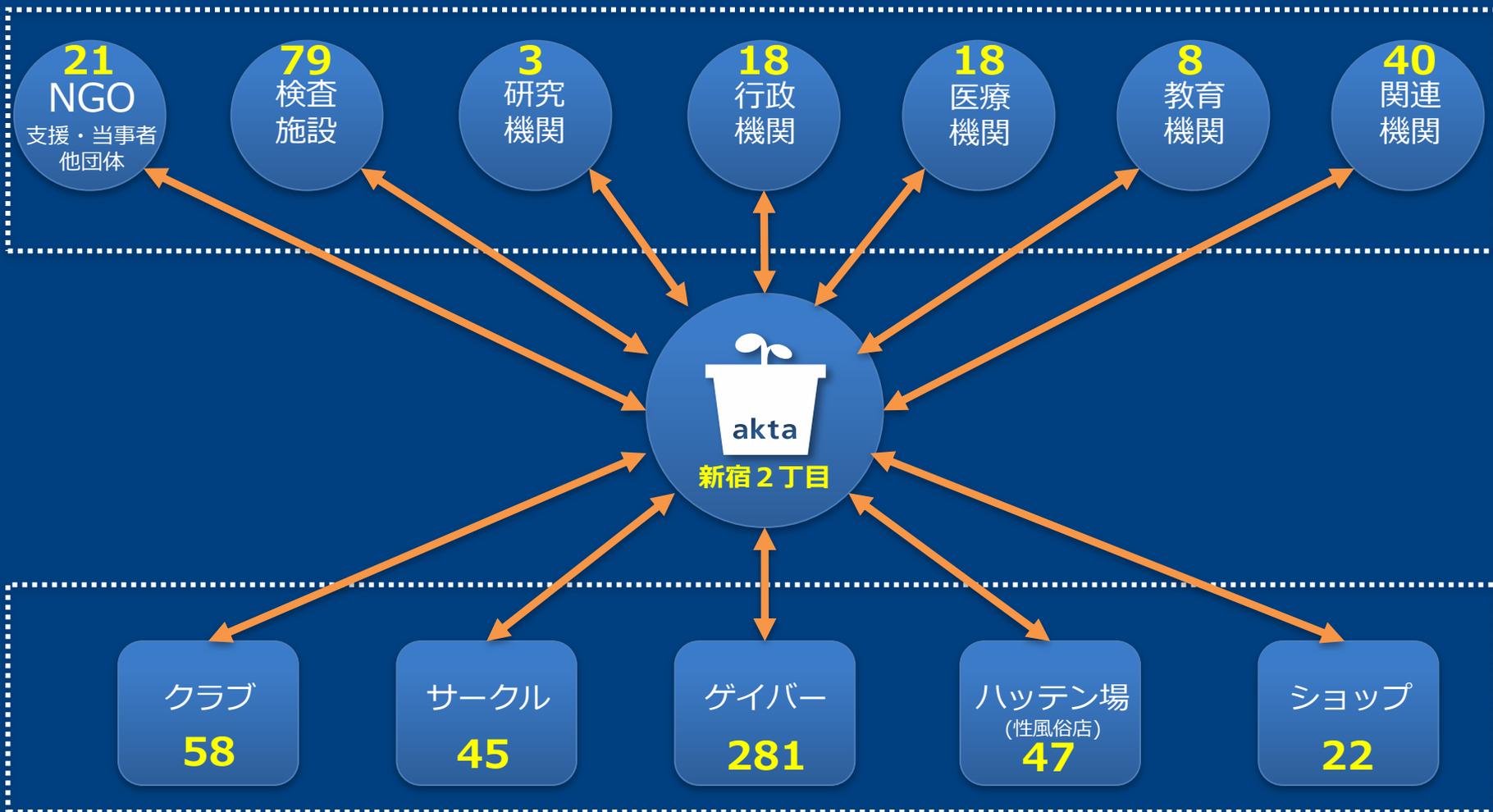
**第6回重点都道府県等
エイズ対策担当課長連絡協議会**



コミュニティセンターaktaとは

MSMを対象とする啓発普及の基点（ハブ）

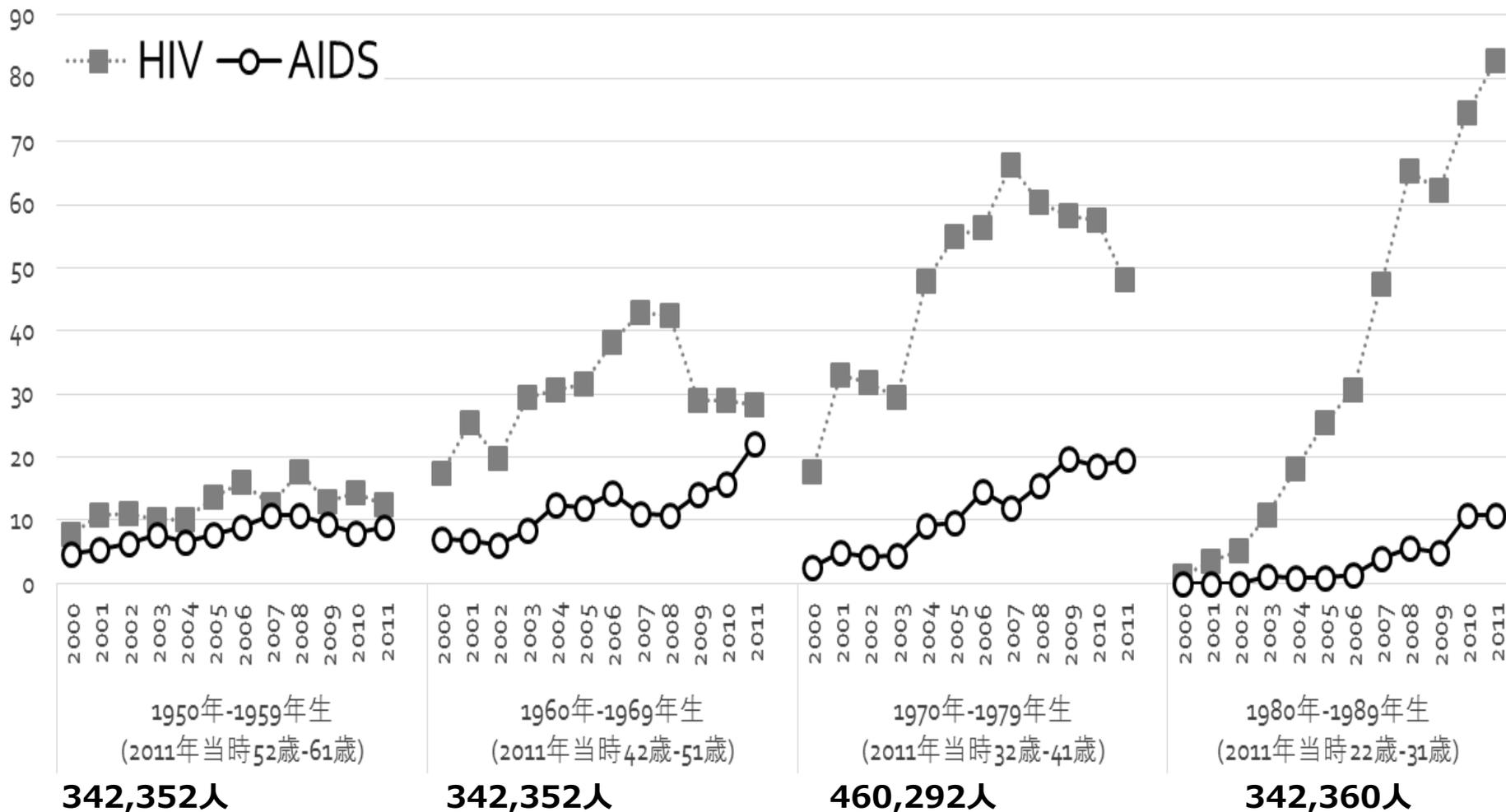
HIV関連機関との連携



ゲイコミュニティとの連携

推計MSM人口10万人対の出生年代別HIVおよびAIDSの動向

(2000年-2011年)



推計出生年別MSM人口

厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業
MSMのHIV感染対策の企画・実施・評価の体制整備に関する研究
研究代表者 市川誠一 平成25年度統括・分担研究報告書

MSM人口に基づくHIV/エイズ発生動向が示唆する事

(HIV：未発症HIV感染者、AIDS：AIDS患者)

- 日本国籍MSMの出生年代別HIV/AIDS発生率（推定値）の年次推移
 - ・1980年代出生群（22-31歳）は、
HIVが著しい増加、AIDSが2010年から増加に転じはじめている
 - ・1970年代出生群（32-41歳）は、
HIVが2007年から減少、AIDSが2009年から横ばい
 - ・1960年代出生群（42-51歳）は、
HIVが2009年に減少し横ばい、AIDSが増加傾向
 - ・1950年代出生群（52-62歳）は、
HIV、AIDSがほぼ同数で推移、2008年まで微増、2009年以降は横ばい

20歳代の若年層に感染がシフトし拡大が見られる
30、40歳代はHIVが減少/横ばい、AIDSが増加傾向

予防介入
受検促進

— 提言 —

コミュニティセンター aktaは、

- 存在そのものが、街や社会におけるHIV/エイズを可視化するものになっている。
- 来場する契機をつくることで、常に新規来場者を巻き込み予防啓発の普及を行う。
- センターが街の中にあり続ける事がコミュニティとの連携を作り出し、維持しているとともに、自治体や医療機関等との連携を促進している。

センターがある事で、**エイズ対策のための常に新しいネットワークを構築できる、**

センターがある事で、**MSMに訴求性のある啓発資材を開発できる、**

センターがある事で、**定期的に啓発資材を必要な層に届ける事ができる、**

- コミュニティセンターaktaには、国内だけではなくモンゴル、台湾、中国、シンガポール、イギリスをはじめ世界各国から見学があり、MSMを対象とした啓発拠点事業のモデルとなっている。
- オーストラリアでは一旦感染の増大がおさまりに、予算を削減した。それにより、MSMのHIV感染およびエイズ発症者数が増加した。その動向を受け、あらためてMSMを対象とするHIV感染対策に予算が投入されたケース(※)もある。 ※Koerner Jane et al.[2007]「MSMに対するエイズ政策の国際比較研究—オーストラリアのMSMへのエイズ政策と実行」、『厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業男性同性間のHIV感染対策とその評価に関する研究—平成18年度 総括・分担研究報告書—』
- MSMのエイズ対策はその他の個別施策層への対策へも応用が可能である。

— 課題 —

●コミュニティセンターは、戦略研究において首都圏で成果を収めた後に、事業化がされた。年々エイズ対策にかけられる予算が削減されているが、個別施策層であるMSM対策においては、コミュニティセンターを中心に**MSM当事者の視点とネットワークを駆使して実施することが必須である。**

●活動において、東京都福祉保健局、新宿区保健所、港区みなと保健所、東京都立精神福祉センター、都立高校等とも連携して啓発プロジェクトを企画・実施している。しかし、こうした取り組みも全て本拠点事業および、その社会資源（施設、スタッフ）がベースにある事で、実施する事が可能となっている。

●HIV/AIDSが長期療養時代になってきている。検査の利便性の問題はあるが保健所等には他課とも連携して地域のハブとしての機能を求めている。

— 2012年6月1日NPO法人akta設立 —

aktaはアジア最大といわれる300軒を越えるゲイバーや商業施設が連なる新宿2丁目にあります。多様なセクシャリティの人たちが集うコミュニティの中から、コミュニティの人たちへ。そして、コミュニティをとりまく社会へ。

すべての人がもうすでにHIVとともに生きているという視点のもと、HIVへの感染機会のある人びととHIV陽性者に向けて、予防啓発と支援の両面の重要性を踏まえた活動を行っています。

多様なセクシャリティとセクシャルヘルスの認知と理解をはかり、偏見や差別の無い、だれもが自分らしく暮らせる街になることを願っています。